



法華宗
陣門流

靈妙寺

寺報

秋季彼岸号

9月 秋季彼岸法要

10月 宗祖南無日蓮大聖人 御報恩
御会式のご案内

猛暑の日々が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃より當山の護持発展にご協力を賜り心より篤く感謝申し上げます。

7月の盂蘭盆会・施餓鬼法要では本宗御寺院様方を多数お招きし、多くの檀信徒さまにご参詣頂き盛大な法要を執り行うことができましたこと、改めて心より御礼申し上げます。

さて、引き続き9月には秋季彼岸法要、10月には御会式を執り行いますのでぜひ皆さまご家族様と一緒にご参詣下さいますようご案内申し上げます。

① 秋季彼岸会のご案内

令和7年 9月23日 (火・祝)

午後12時半～

写経・写仏

午後1時20分頃～

法話

午後2時～

秋季彼岸法要



お彼岸って何？

お彼岸は春分・秋分の日を中心に前後七日間の期間のことをいいます（本年は9月20日～26日）。初日を「彼岸入り」、最終日を「彼岸明け」と呼び、その中日の春分・秋分の日を「お中日（ちゅうにち）」といいます。春分と秋分の日、昼と夜の長さがほぼ等しくなるだけでなく、太陽が真東から昇り真西に沈むため、私たちのいる此岸（しがん＝迷いの世界）と、仏さまの悟りの世界である彼岸（ひがん）が最も通じやすくなる日と古来から考えられてきました。

このことから、お彼岸はご先祖さまへのご供養と、自らの心を仏道へ向けて整える大切な期間とされてきました。

お彼岸の期間にはすべき心掛けが2つあります。一つはご先祖様のご供養です。お墓やお仏壇をきれいに整え、お花やお線香、お供物をお供えして、感謝の気持ちを伝えましょう。ご供養は、亡き方々に想いを届けるだけでなく、今私たちが生かされている命のつながりを確認する尊い行いです。もう一つは、ご自身の心の修行です。お彼岸は「六波羅蜜（ろくはらみつ）」という六つの実践をすすめる期間でもあります。

六波羅蜜の「6つの内容」

布施 (ふせ)



見返りを求めず、他者に対して
施し物惜しみない心を具現化

持戒 (じかい)



悪い習慣を断ち、良い行いを
習慣化すること

忍辱 (にんにく)



嫌なことや辛いとき、じっと
耐え忍ぶこと

精進 (しょうじん)



怠けることなく修行に励み、目標
を達成できるように動くこと

禅定 (ぜんじょう)



心を一つに留め、動じない精神
を保つこと

智慧 (ちえ)



物事を正しく様々な角度から
見るように意識すること見る力

これらの6つの実践は迷いの世界から悟りの世界へ渡るための舟にたとえられます。

お彼岸の期間にお墓参りをしたり、お坊さんの読経に耳を傾けたりすることは、亡き方々を偲ぶだけでなく、私たちが心を整え、日常をより良く生きるための貴重な機会となります。この一週間、仏さまやご先祖さまに手を合わせながら、自分の行いや心の持ち方を少し見つめ直してみましょう。お彼岸は、私たちが今をより豊かに、そして穏やかに生きるための大切な教えを示してくれる期間なのです。

② 御会式のご案内

令和7年 10月26日 (日)

午後1時20分頃～ 法話

午後2時～

宗祖南無日蓮大聖人 御報恩
第744御遠忌 御会式

御会式って何？

御会式（おえしき）とは、日蓮大聖人を宗祖と仰ぐ法華宗・日蓮宗において一年で最も大切な行事の一つで、日蓮大聖人の御命日（10月13日）を中心に営まれる報恩感謝の法要です。弘安5年（1282年）、日蓮大聖人は武蔵国池上（現・東京都大田区池上）の池上宗仲公の館で、61歳の生涯を閉じられました。その最期の時まで、弟子や信徒に法華経の尊さを説き、人々の幸福と社会の平和を願い続けられた聖人のお姿を偲び、その恩徳に感謝するのが御会式の意義です。

この行事は全国の法華宗・日蓮宗寺院で営まれますが、特に池上本門寺の御会式は有名で、毎年数十万人の参詣者で賑わいます。境内や参道には、色鮮やかな紙の桜花を飾りつけた「万灯（まんどう）」がずらりと並び、提灯の灯りとともに夜空を照らします。桜花は日蓮聖人の御入滅の際、季節外れの桜が咲き乱れたという伝承にちなみ、また万灯の灯りは私たち一人ひとりの信心の光、そして聖人の教えが未来永劫輝き続けることを象徴しています。ちなみに霊妙寺本堂にも多くの桜花が飾られます。



日蓮大聖人



池上本門寺の御会式画（万灯行列）



御会式は単なる歴史的行事や観光的なお祭りではなく、私たち信徒が一年の歩みを振り返り、日蓮大聖人の教えに照らして自らの生き方を正す大切な機会です。忙しい日々の中でつい忘れてしまう「感謝の心」や「人のために尽くす思い」を取り戻し、また新たな一歩を踏み出す節目でもあるのです。

日蓮大聖人は「一灯照隅 万灯照国」のように、一つの灯りが隅々を照らし、多くの灯りが国全体を明るくするよう、私たち一人ひとりの信心と行いが社会全体を照らすと教えられました。御会式の灯りに心を重ね、私たちもまた誰かを照らす灯明となるよう精進してまいりましょう。

法 話 「 余 白 」

※2020 年にホームページに掲載したブログ法話を再構成したものです

私は自分の性格が「きっちりし過ぎるなぁ」と思って悩むことがあります。特に言葉や文章については慎重で、自分の言葉に表現不足があって伝わっていないことがないかどうかを気にしやすい性格なのです。

誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どのように。これらが不足していることによって、頭の中に映像が描けないことに若干の気持ちの悪さを感じてしまい、変に「正確性」を求めてしまう。

このようなブログを書いていることをきっちり正しく伝えようとしてしまい、草稿の文字数が多くなり過ぎてしまいます。そして結果的に、その言葉は読み手（聞き手）からするとおそらく「過剰」と感じるだろうなぁ、と思い「これはいらない」「ここは言い過ぎ」と、大幅に言葉を削っていくという作業に入るという繰り返し。

会話においてもそうです。たとえば「今日はお暑うございます」と言われたときに、「そうですね。今日は朝から蒸し暑いなと感じていました。実際 18 度なのでそんなに暑くないとは思いますが、そう感じるのは風がないからですかね。例年は今くらいの時期ですともっと涼しくて過ごしやすいですよ。」と長々と面倒くさい返事をしそうになるくらい。相手からしたらきっと「あ、はぁ、そうですね（苦笑）」となるでしょう。

「今日は天気がいいですね～」

「ほんとですね～」

「儲かりまっか？」

「ぼちぼちでんな～」

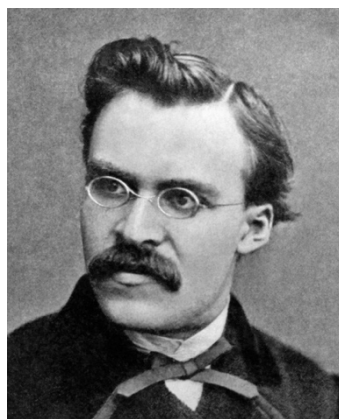
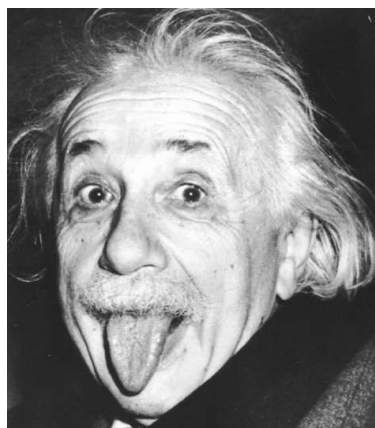
といったくらいのお愛のない会話が（嫌いという意味ではなく）得意ではないのが悩みどころなのです。妻に言わせれば「男の人ってそんなもんなんじゃない？」なのですが、まわりを見渡すと気軽な会話を楽しんでいるように見えますし、おそらく師匠である先代住職もそのような会話が得意なんだろうなと羨ましく思います。

なぜそんな話をしたかということ、最近ある言葉を何度か聞く機会があり、ふと思うこと

があったからです。

「神は細部に宿る」(God is in the details.)

アインシュタインやニーチェなどが言ったとされるのですが、語源や由来は定かではないそう。



▲ 天才物理学者アインシュタイン（左）と、哲学者ニーチェ（右）

この言葉は「細かい部分までこだわり抜くことで、全体としての完成度が高まる」という意味を表すもの、であるとのこと。

書籍においても絵画においても、当然ながら作者は作品に主軸となるテーマを描き入れます。しかしそれで完成ではなく、細かい部分までおろそかにせずに、念入りにこだわりが貫かれることでその作品は「本物」となるという意味です。

一方、こう指摘をする人物もいます。明治期の思想家、岡倉天心の言葉です。

「完成品ではなく、未完成品ゆえに、
受け手の完成に向かう想像力によって完成に至る」

- ▶ 西欧の学問と日本の伝統的な教養の融和を図った稀有な思想家、岡倉天心。
日本美術院創立者、美術史家、美術評論家としても活動し、ボストン美術館東洋部長も務めていて英語が堪能だった。



「作品の完成はすべて作者が担う」という考え方と、「作品は受け手の想像力と合わさって完成する」という考え方の違いがそこには存在しているように感じます。なんだか欧米のように「主義主張をストレートに伝える」という文化と、日本のように「相手の気持ちとともに醸成していく」という文化の違いのようにも見えますね。

そこにある違いは「話者」と「聞き手」、「著者」と「読者」、または「制作者」と「鑑賞者」との間にある「余白」の有無と言い換えることもできそうです。

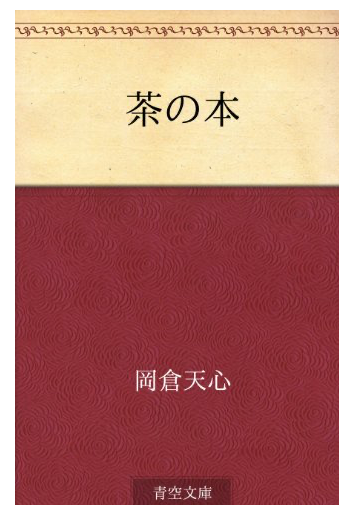
岡倉天心の言う「未完成」というものは「手抜きで良い」というわけではもちろんありません。ただ細部までこだわりながらも、完成には受け手に委ねる「余白」が必要であるという岡倉天心の言葉には、何かおぼろげにも気付かされることがあるような気がしてきます。

岡倉天心は著書「茶の本」の中でこんな言葉を著しています。

「茶道は本質的に不完全なものへの崇拜であり、人生というこの不可能なものの中で、何か可能なものを成し遂げようとする繊細な企てである。」

「茶室、すなわち数寄屋は単なる小屋で、それ以上を望むものではない。・・・不完全の美学に捧げられ、故意に未完のままにしておいて、見る者の想像力によって完成させようとするがゆえに『数寄屋』である」

▶ 「枯山水庭園は、水を感じることで心の中で完成する。」
こうした日本の美意識を「茶道」を起点に語ったのがこの「茶の本」。原書は英語で書かれています。



岡倉天心の言葉には仏教に通ずるものも多く登場します。それはおそらく仏教が日本人の価値観の根底にあるからこそ表れ出てくる言葉だからなのではないでしょうか。

「禅が世に広まって以降、日本の美意識は、完成や重複といった左右対称の表現を避けてきた。画一的な意匠は想像力を破壊するものとみなされたから。」

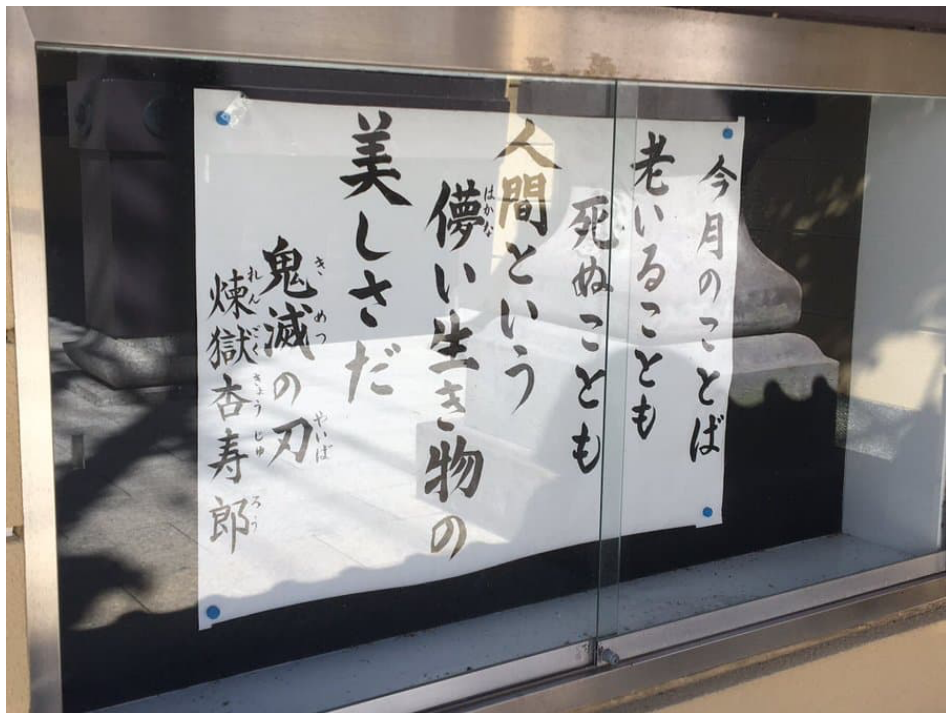
「本当の美しさは、不完全を心の中で完成させた人だけが見出すことができる。」

このように岡倉天心は「不完全」で「未完成」であるものの先に「美」があるとして、「不完全」「未完成」であることこそを肯定しているのです。

さらにさかのばれば室町時代の能役者・世阿弥の言葉もやはり同じ。「秘すれば花なり」という言葉を遺しています。目に見えるものがすべてではなく、大切なものは目に見えない。人々がめいめいに心の中に咲かせる花こそが大切なものなのである、と。

「余白」はこの引き算の美学なのかもしれません。

先日のブログエントリー『[やりやがった西本願寺。](#)』で紹介した、鬼滅の刃に出てくるキャラクター煉獄杏寿郎の言葉にも通じるように思います。



▲浄土真宗西本願寺派の、とあるお寺の掲示板

死んだあとの世界、仏様やお経文の世界。これらの存在が「あるのか」「ないのか」。今を生きている我々には誰にも分かりません。

けれども分からないからこそ、各々の心の中の「余白」には存在することができる。そう考えてみると、信仰というものは、我々と仏様、ご先祖様達とを繋ぐ「余白」の中に存在するような気がします。

岡倉天心の言う「完成品ではなく、未完成品ゆえに、受け手の完成に向かう想像力によって完成に至る」という言葉に当てはめれば、「余白」の中の信仰が仏様の世界を作り上げることになるのではないかとも思うのです。

さて、だいぶ話が遠回りしてしまいました。話しを最初に戻しますと、この「余白の大切さ」という話題から私がおぼろげに気付かされたのは、自分の言葉の伝え方とリンクしたからです。自分の言いたいことを 100%、細部にわたるまで詰め込んで相手に届けるような合理的で画一的で隙のない言葉。これは一切の「余白」を排除する行為になってしまうのではないかな、と。

簡単な言い方をすれば、話し相手に情報を伝えるだけで、そこに心の交流がない。つまり「面白みのない話し」になってしまうのかなと、ふと思ったのです。大切なのは自分の言葉を大事にしながらも、同時に受け手に「余白」を残して言葉を届けることなのかなと今更ながらにして思った次第です。人にモノを伝えるというのは簡単なようでとても難しいものですね。

デジタル社会となりコスパ、タイパが重要視される現代において、無駄なものは排除されがちです。「余白は無駄遣い」。「余白は何も生み出さない」。だから不要だと言うこともできるでしょう。しかし、おおらかさが失われつつある時代だからこそ、心の余白をもって人に接することがより大切になるのかもしれない。

みなさんはどうお思いになられるでしょうか。

・・・と、余白を残してみる。。。

White Space

余白は美しい。
もったいなくない。

霊妙寺 住職
河野隆光 拝

霊妙寺の公式 LINE アカウントができました！

霊妙寺の
LINE 公式アカウントができました。
LINE 公式アカウントでは、
お知らせや行事の情報を配信いたします。
また、LINE からのお塔婆や
ご法事のお申し込みも
随時受け付けています。
ご供養のことだけでなく、
普段気になることやお困りごとがある方も
お気軽にご相談できる窓口
になっていますので、
この機会にぜひ友だち追加を
よろしくお願いします。

追加方法は以下の 2 パターンです。

【LINE 追加方法 1】

右の QR コード（2 次元バーコード）を
スマホで読み込む

【LINE 追加方法 2】

- ・ LINE アプリの検索欄に以下の ID を入力してください。
@785iklrw（7 8 5 ・ アイ ・ ケー ・ エル ・ アール ・ ダブリュー）

霊 妙 寺 LINE 公式アカウント

友だち 募集中

@785iklrw

LINEで気軽に
ご依頼・お問い合わせ
できるようになりました！



～ お塔婆お申込みのご案内 ～

お盆には帰ってこられるご先祖様をおもてなしするために
お塔婆をあげて供養するのが一般的です。

また、お塔婆は故人様・ご先祖様への供養（敬意と感謝）の気持ちを込めたお手紙です。當山では毎月、御命日にあたる諸霊位を供養する月供養法要を執り行っております。ご命日にはお塔婆を奉納してご供養をしましょう。

※郵送料高騰のため、申込み用の返送ハガキの同封は廃止させていただきました。

お申込みはホームページ・電話・FAX・郵送にて承っております。
ご供養されたい方のご戒名またはご先祖様のお名前をお伝え下さい。

お塔婆 大塔婆（六尺）4,000円／一本（主にお施主様）
中塔婆（五尺）3,000円／一本（主にご近親者様）
小塔婆（四尺）2,000円／一本（主にご親族・ご友人様）



スマホ「お塔婆お申込み」ページ



スマホ「ご法事お申込み」ページ

@785iklrw
LINEで気軽に
ご依頼・お問い合わせ
できるようになりました！



お墓参り・お墓掃除の代行承ります

お墓は、私たちのご先祖さまとのつながりを感じ、感謝をお伝えする大切な場所です。そこに眠る方々は、私たちの命の“根っこ”であり、そのご恩があって今の私たちの暮らしがあります。お墓参りやお墓掃除は、この感謝の心を形に表す行いであり、仏さまの前で心を整える大切な修行でもあります。

お墓の石を拭けば汚れが落ちていくように、私たちの心の曇りもずっと晴れていく——。草を抜くたび、先祖との思い出や、これまで支えられてきた日々への感謝が自然と湧いてくる。その時間は、過去と現在をつなぎ、命と命を結び直す尊いひとときでございます。

しかし近年は、真夏の猛暑やご体調等のご事情、またはご遠方にお住まいなどの理由から、「お参りや掃除に行きたくても、なかなか行けない」というお声をいただくことがあります。無理をして炎天下に出向き、体調を崩してしまっただけでは本末転倒です。ご先祖さまもきっと、「危険をおかしてまで来なくてもよい、無理せず心に向けてくれれば十分」と思ってくださいませ。

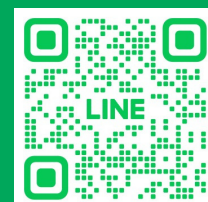
そこで當山では、皆さまに代わって心を込めて墓参り・墓掃除を行う代行ご供養を承れるように致しました。代行では下記サービスを行っております。

- ① 墓石や周囲の丁寧な清掃、雑草の除去（3,000 円）
- ② 新しい供花とお線香の供え（5,000 円）
- ③ 合掌礼拝と読経（7,000 円）
- ④ お塔婆を建立（1 本 2,000 円～4,000 円）

※全て行わなくても構いません。組み合わせは自由です

終了後にはお写真とご報告をお送りいたします。

@785iklrw
LINEで気軽に
ご依頼・お問い合わせ
できるようになりました！



上記サービスは、お盆や、お彼岸、御命日などのスポットでのご依頼や、毎月など定期的なご依頼も承ることが可能です。またその月によって、お申込する内容をご希望によって変更頂いても構いません。どうぞお気軽にご相談下さい。

「直接行けないこと」を後ろめたく思う必要はございません。お掃除やお参りをするのは手ですが、その手を動かすのは皆さまのご供養の心です。その心さえあれば、距離も時間も越えてご先祖さまに届きます。私たちは、その尊いお気持ちを、責任をもってお墓へとお届けいたします。

ご遠方にお住まいの方、体調がすぐれない方、猛暑や天候の影響がご心配な方も、どうぞお気軽にご相談ください。皆さまの「ありがとう」という思いを、私たちが代わってお伝えし、清らかな姿に整えてまいります。

合掌

霊妙寺 セルフ家族葬 について



先般、お送りさせていただきました「セルフ家族葬」について。お陰さまで、多くの方々からお問い合わせをいただいております。また、すでに「セルフ家族葬」にてお見送りを頂いたご家族様からも「良いお見送りができました」と喜んでいただいております。

事前にお見送りの準備ができていると、心の問題、経済的な問題、様々な点において安心することができます。

最新のパンフレットが欲しい方は送付させていただきます。住職、寺庭婦人が御心に寄り添ったご提案をさせていただきますので、いつでもお問い合わせください。

☎ 03-3372-8618

@785iklrw

LINEで気軽に

ご依頼・お問い合わせ
できるようになりました！

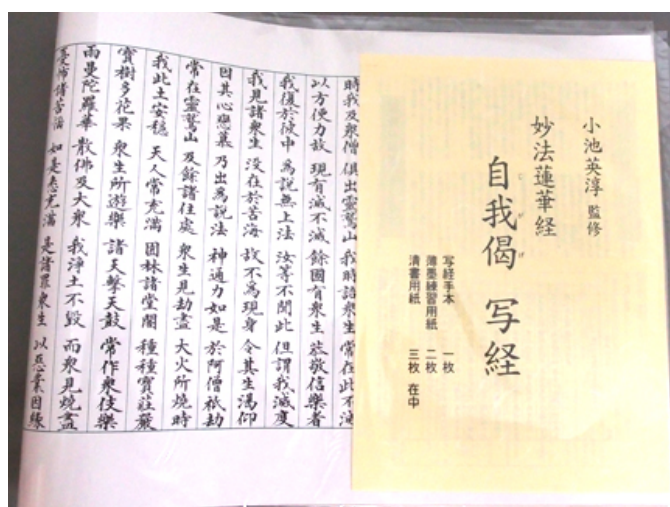


最新版は2025年8月の内容となります。

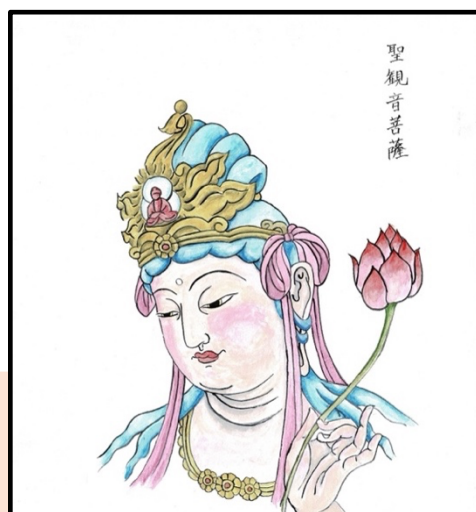
← LINE 公式アカウントから
ご覧いただくことが可能です。

写経・写仏について

法要の前には、写経や写仏などに取り組むこともできます。



「写経」は法華經の大事な詩（偈文）
「自我偈」を小筆で書きあげます



「写仏」「仏画」は
一枚の色紙に仕上がります

気になることがありましたら霊妙寺のホームページをご覧ください。

- ・ ご法事、お葬儀のご相談 ・ お塔婆のご依頼 ・ 合格祈願、安産祈願、交通祈願
 - ・ 墓地や永代供養について ・ 御首題（御朱印）、御守など ・ 各種ご相談
- また、各種ご相談ごとお聞き致します。お気軽にお電話ください。



霊妙寺



霊妙寺 LINE
公式アカウントなら
LINE からホームページが
閲覧が可能！

@785iklrw
LINEで気軽に
ご依頼・お問い合わせ
できるようになりました！



- ・ 日行会費（護持会費）を納めて頂いていない方は、御協力の程宜しくお願い致します。
（1,000 円／一か月 ・ 12,000 円／年間）
日行会費（護持会費）とは、皆様方のご協力のもと、年間の法要に際しお花やお供物、お茶菓子などに使わせて頂いております。また併せて、お寺の維持・布教活動の一部とさせて頂いております。
- ・ 納骨堂管理料（12,000 円／年間）・墓地管理料（12,000 円／年間）を納めて頂いていない方々は、ご協力の程宜しくお願い致します。
- ・ ご参詣できない方は、ご先祖様の御供養、お寺の護持発展のために「お布施（ご供養料）」をお送り頂きたいようお願い申し上げます。

☆ご送付は現金書留、または下記金融機関での銀行振込にて宜しくお願い致します。

【金融機関名】 三菱UFJ銀行
【支店名】 329（新宿新都心支店）
【預金種目】 普通預金
【口座番号】 5701960

【金融機関名】 ゆうちょ銀行
【支店名】 008
【預金種目】 普通預金
【口座番号】 8281372

TEL & FAX・(03・3372・8618)

法華宗 八大山 霊妙寺
住職 河野 隆光